

## 日本留学 AWARDS に 2 年連続「大賞」受賞

日本語学校の教職員による、留学生に勧めたい進学先を選ぶ「日本留学 AWARDS2016」(主催：一般財団法人日本語教育振興協会 日本語学校教育研究大会)にて、私立大学(文科系)部門で本学が 2 年連続で大賞を受賞した。

8 月 23 日(火)に国立オリンピック記念青少年総合センターで授与式が行われ、岩崎恭典学長が出席し、賞状と盾を賜った。日頃の留学生サポート(生活・学習面)や、日本語学校との連携などが評価されたことが、今回の受賞につながった。今後も、本学の特長である「きめ細かな留学生支援」の更なる充実を目指していく。



## 高校生の環境サミット開催

7 月 24 日(日)に行われた「夏のエコフェア 2016」の中で、「高校生活動発表会(高校生の環境サミット)」が開催された。約 60 名・5 団体の高校生たちが、日頃の活動を発表した。また、発表後には時間を掛けて「活動を地域にもっと役立てるにはどうすれば良いか」という視点の意見交換を行った。

5 団体の発表はいずれも素晴らしく、参加した高校生からは「このような場で発表出来て良かった」「他校の取組みが分って大変勉強になった」「自分たちと異なる分野で活動する高校生のことが分って良かった」「この会場に集まった地域貢献する高校生たちが互いに繋がっている感覚を覚えた」などの意見があった。発表後には、全団体に對して表彰が行われた。四日市大学は COC 事業の一環として、地域の高校と連携しながら、地域の若者の活動を活発化させる取組みも応援していく。

表彰名	内容	受賞団体
東産業省	水環境に関する優れた活動を表彰	愛知黎明高校 自然探求コース
三重県環境学習情報センター賞	優れた環境教育活動を表彰	四日市農芸高校 自然環境コース
公益財団法人 国際環境技術移転センター賞	国際的に広めたい 国際・環境活動を表彰	愛知県立南陽高校 Nanyo Company
四日市大学賞	人材育成の面で優れた研究活動を表彰	四日市中央工業高校 都市工学科
環境情報学部賞	科学的に優れた研究活動を表彰	四日市中央工業高校 理科部

## 映画「日本で一番悪い奴ら」公開(ボランティア協力)

四日市大学ボランティアセンターを通じて、学生ボランティアが撮影協力した映画「日本で一番悪い奴ら」(監督：白石和彌、主演：綾野剛)が、6 月 25 日(土)に封切りされた。映画のエンドロールに、四日市大学の名前がクレジットされ、またパンフレットにも本学の名前を掲載していただいた。

四日市・桑名地域でのロケは、昨年の 6 月に行われ、市内の武道場や商店街などで撮影が行なわれた。「単なる商業的なエキストラでなく、この地域に愛着のある人たちに画面に入ってもらいたい」という、製作関係者の強い意向で、本学にエキストラの出演を依頼された。撮影当日は平日だったため、多人数の学生ボランティアの参加は難しい中で、アメリカンフットボール部や野球部など、体育会の学生が協力した。

また、映画の時代設定の関係で、ヘアスタイルや服装などについてお願い事項があったり、主演の綾野剛さんを間近で見られたりと、通常のボランティアとはいろいろな意味で異なる面白い内容であり、学生達にとっても貴重な体験となった。

これまでの Pick Up Topics は、ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

 文部科学省 **地(知)の拠点** Pick Up Topics には、COC 事業における記事が含まれています。

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200

TEL:059-365-6711 FAX:059-325-7218

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

<http://smile.yokkaichi-u.ac.jp/> (受験生サイト)



P.1・四日市大学第 3 代学長に岩崎恭典が就任  
・伊勢湾海洋調査実習を実施

P.2・エコパートナー交流会で教員・学生が講演  
・四日市本町通り商店街のイベントに四日市大学生が参加  
・「地域と関わる学生」に国際地域コースの学生が参加

P.3・第 100 回伊勢高柳の夜店に「四日市大学の日」出展  
・平成 28 年 防災功労者防災担当大臣表彰を受賞  
・地域志向科目「四日市学」のバス研修を実施

P.4・日本留学 AWARDS に 2 年連続「大賞」受賞  
・高校生の環境サミット開催  
・映画「日本で一番悪い奴ら」公開(ボランティア協力)

## 四日市大学第 3 代学長に岩崎恭典が就任

9 月 1 日(木)付で、本学第 3 代学長に、岩崎恭典教授(総合政策学部/専門分野：政治学・地方自治論)が就任した。これは、本学学長であった宗村南男・学校法人暁学園理事長の本年 4 月の急逝に伴うもの。岩崎恭典教授は、平成 24 年度から副学長に就任し、本年 4 月からは前学長の跡を受け学長代行を務めていた。

岩崎新学長は、「四日市大学は地域貢献を柱とした大胆なカリキュラム改革の検討を加速させ、四日市市が持つポテンシャル(20~25 歳の勤労人口の本地域優良企業への流入、豊かな食文化や住環境など)をカリキュラムに取り込み、この地域と生涯深く結びつく学生を育てることを目標としている。特に『地域を教室に、地域から学ぶ』を実践する実地教育をメインに据えたカリキュラム改革を進めており、同時に、個々の学生の成長を客観的に評価し、応援する本学独自の『成長スケール』を開発し導入している。大学を取り巻く教育環境が大きく変貌しつつある今日、建学の精神『人間たれ』を精神的基盤に、地域貢献型・地域密着型大学として独自の特色を引き継ぎ、積極的に展開していく所存とし、この姿勢こそが本学の伝統であり使命であると確信している。」と意気込みを表明した。



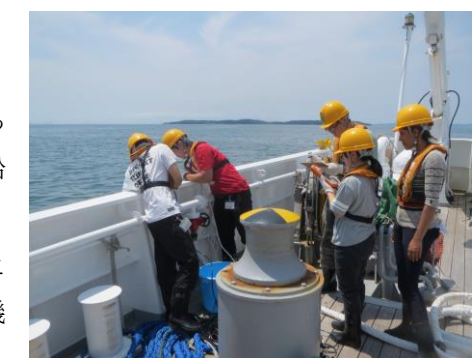
第 3 代学長 岩崎恭典

## 伊勢湾海洋調査実習を実施

8 月 3 日(水)から 5 日(金)にかけて、恒例となった伊勢湾海洋調査実習を行った。この実習は三重大学の勢水丸をお借りして単独航海として実施しているもので、今年度で 7 回目である。今回は四日市大学環境情報学部の 1 年生を中心とした 20 名で構成し、千葉賢教授(環境情報学部)、廣住豊一講師(環境情報学部)が引率し指導にあたった。天候に恵まれ、波は穏やかで雨も降らず、学生たちは船酔いも無く元気に 2 泊 3 日の実習を経験した。

今回の航路は太平洋には出ず、伊勢湾と三河湾を巡るもので、四日市付近の巨大船舶群、伊勢湾口や三河湾口の美しい島嶼(トウショ)群などを見ながらの観測実習は、日頃の教室での講義とは全く異なり、学生たちには新鮮なものであった。また、船内の清掃、配膳や皿洗いなど、実習船ならではの仕事も学生には貴重な経験になった。伊勢湾の泥の採取、水質の調査、プランクトンネットを用いたマイクロプラスチックの採取、海底生物(ベントス)の採取など盛り沢山の調査を行い、海洋調査が始めての学生には、ついでゆくのが大変だったようだ。

ベントス調査では、ハモ、赤舌平目、メイタガレイなどが採れ、学生たちは大喜び。恒例の夜釣りでは、子サバやアジが釣れた。閉校式では、前川船長から「この経験がきっと将来役に立つことがある。役立ててください。」との言葉をいただき、勢水丸前で記念撮影を行い、実習を終了した。参加した学生達は、海の環境を学ぶとともに、仲間同士と友情を深める素晴らしい機会にもなった。





## エコパートナー交流会で教員・学生が講演

6月26日(日)、四日市公害と環境未来館主催による「平成28年度第1回エコパートナー交流会」にて、神長唯准教授(総合政策学部)が講演した。これは、四日市市と本学が締結した、同館の活用に関する連携協定の一環で実現したものだ。今回の講演の趣旨は、本学が実践している地域を「学びの場」とする試みと、四日市公害と環境未来館が地域の「学び場」となる上での課題等について、エコパートナーの皆さんに紹介し、問題意識の共有・提案をはかるもの。この日の講演には、COC事業の一環で訪れた富山県富山市、岡山県倉敷市水島の現地調査にそれぞれ同行した経験を持つ山岡亜希さん(総合政策学部3年)と花村光さん(環境情報学部2年)も参加し、神長唯准教授からの質問を受け、現地調査を通じて感じたことなどを発表した。

講演後に設けられた質疑応答の時間にも、フロアから熱心な質問や大学への提案が途切れず、与えられた1時間の講演時間をオーバーして主催者が慌てる一面もあり、盛況裡に終了した。



## 四日市本町通り商店街のイベントに四日市大学生が参加

8月26日(金)、JR四日市駅近くにある本町通り商店街のイベントに、茶道部をはじめとする四日市大学の学生たちがボランティアで参加した。これは鶴田利恵教授(総合政策学部)が学生に呼びかけたもので、当初は茶道部員が中心であったものの、その後口コミで次々に参加学生が集まった。

茶道部の学生は、イベントに遊びに来た高齢者や子供達に浴衣姿でお抹茶を振る舞い、津軽三味線を演奏できる男子学生は皆さんの前で「津軽じょんがら節」など4曲を披露した。

その他、伊勢型紙や子供工作(ストロー笛と牛乳パックで作るびっくり箱)の指導、お客さんの誘導や子供の遊び相手などいろいろなことを経験する学生もいた。

お年寄りや子供達からは、「お抹茶が、とても美味しかった!」、「めったに聞けない三味線演奏を聞いて楽しかった」などの言葉をいただいた。イベント終了後の反省会では、「楽しく積極的に参加できて勉強になった」という感想のほか、「広報活動をもっとすべきではないか」といった意見も出され、学生にとって課題抽出とその解決策を考える良い機会となった。今回のイベントを契機に、四日市の商店街と大学の関係をさらに発展させていきたい。



## 「地域と関わる学生」に国際地域コースの学生が参加

8月24日(水)、三重県総合文化センターで行われた三重県教育委員会主催の社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」に、経済学部国際地域コースの3ゼミ(岡良浩ゼミ・富田与ゼミ・鶴田利恵ゼミ)の学生が参加した。

この催しは、三重県内の高等教育機関に在籍する学生が地域における社会教育実践を情報発信し、県内の社会教育・生涯教育に関心のある方々との情報交換や、児童・生徒向け体験活動などの指導や支援を行うとともに、活動のさらなる活性化を図ることを趣旨として開催されたものだ。

国際地域コースの学生は、2015年度から毎年行っている「こども四日市」での支援活動についての報告と、ブースでのポスターセッションを行い、三重県教育委員長より表彰を受けた。ブースでは、社会教育に関わっている多くの方々が興味を持って説明を聞きに来てくださった。

また、他の高等教育機関の学生との交流もでき、今後の活動へのヒントや刺激を得ることができた。



## 第100回伊勢高柳の夜店に「四日市大学の日」出展

伊勢高柳商店街振興組合と伊勢市・伊勢商工会議所・伊勢市観光協会の主催による伊勢高柳の夜店にて、7月3日(日)は、「四日市大学の日」と銘打たれ、学生がブースを出展した。同夜店は、伊勢神宮奉納花火大会とともに伊勢地方の夏の風物詩で、大正年代に始まり今年で100回となり、本学の出展も5回目となった。最終日のこの日は、親子連れ、小中高生、カップルなどで賑わった。この企画は、金融経済教育研究会(代表小島彩花・経済学部4年/顧問東村篤教授)が運営し、社会連携活動の紹介パネル展示、連携先の三重県高齢者福祉問題研究会による「電話安否確認サービス案内」、同市民後見センターいせ「後見相談案内」などを行った。

また、四日市大学の関孝和数学研究所製作によるパズルは、毎回好評で、挑戦には待ち時間が出る一幕も。また、お笑い演芸館「かよう寄席」では、本学協創ラボ連携先である「北勢地域インタープリター協会」代表のねむ亭安楽さんが高座を務めた。さらに、今回初企画である「笑いヨガ」は、協創ラボ連携先である「市民まちづくり風の会」から福本登美子さんが実施されるなど、想像以上に大盛況であった。金融経済教育研究会の代表である、本学学生の小島彩花さんは、「100年も続く高柳の夜店は、地域の活性化や商店街の活性化にたいへん貢献していると感じ、こういう身近な好例は、各地の商店街がいい点を見習うべきだと思います。」と話してくれた。



## 平成28年 防災功労者防災担当大臣表彰を受賞

四日市大学の学生・教員が立ち上げ、鬼頭浩文教授(総合政策学部長)が代表を務める災害支援団体「四日市東日本大震災支援の会」は、9月7日(水)、平成28年防災功労者防災担当大臣表彰を受賞した。表彰式は内閣府合同庁舎8号館講堂で举行され、当日は代表として、被災地宮城県石巻市出身の鈴木昂樹さん(総合政策学部2年)が出席し、松本純防災担当大臣から直接表彰を受けた。

受賞理由として、これまでの35回、1,300名以上の支援活動とともに、災害で破壊された地域コミュニティの再構築のためのイベント開催が、功績として認められた。また、9月は防災関係のイベントが多く行なわれるが、防災の日である9月1日(木)には、支援の会がコーディネートする「学校防災ボランティア事業」(三重県教育委員会主催)が、中京テレビ「キャッチ!」で10分間にわたり紹介された。

## 地域志向科目「四日市学」のバス研修を実施

8月2日(火)、四日市大学の全学共通科目である「四日市学」のバス研修が行われ、受講生約60名が参加した。本講義は地域志向科目のひとつである。前学期に「座学」で学んだ内容を、実際に現地に出かけ、学生が自らの目で見て回ることによって地元四日市についての理解を深めることに主眼が置かれている。まず、「そらんぼ四日市」を訪れ、3階の四日市市立博物館にて、四日市という地域の成り立ちについて学んだ。また、地元出身の文豪・丹羽文雄の人物像について学芸員の方から解説していただいた。

2階の「四日市公害と環境未来館」でも、展示資料の説明を受け、授業で学んだキーワードを確認した。当時の塩浜小学校の教室を再現した1階の研修・実習室では、クイズ形式で当時の小学生の学習環境がどんなものであったか、想像を巡らせた。午後は、当時公害ぜんそく患者が多発した磯津地区を訪ね、対岸のコンビナートとの距離を体感しながら、四日市公害の「語り部」である野田之一さんのお話真剣に耳を傾けた。

最後に、イオンの物流の基幹センターであるトランスシティロジスティクス中部株式会社を訪れた。四日市港から運び込まれたコンテナの中身がどのように全国へ流通していくか、四日市の産業や経済という観点からも学んだ。今年も本学の卒業生を施設見学の案内役に充てていただくという粋な計らいをしていただいた。なお、当日の様子は、4日付の中日新聞に掲載された。

